

最近麻疹が流行しているというニュースを見かけ、抗体検査を受けに来る方もいらっしゃいます。山形県でも2017年に麻疹の流行があり、60人が感染して県内では大きなニュースになりました。どうして麻疹の流行がそんなに問題になるのでしょうか。それは麻疹ウイルスの感染力が非常に強く、死亡や合併症をおこす率も高い病気だからです。

一般のかぜはもちろんインフルエンザでさえ、ウイルスの感染は接触感染やひまつ感染（咳やくしゃみの時に飛び散る微細なしぶきによる感染）によっておこります。これらは手洗いやうがいを行って励行することである程度防ぐことができます。しかし麻疹ウイルスは非常に小さくて軽いため、ウイルスが地上に落下しないで空気中を浮遊し、それを吸い込んでしまうことで感染してしまいます（空気感染）。つまり麻疹に感染した患者さんと接触がなくても、同じ部屋にいただけ、同じ電車や飛行機に乗っただけで感染してしまうということです。ですので、麻疹患者さんは疑いの段階でもすぐに隔離しなければなりません。

典型的な麻疹の症状は発熱、風邪症状、発疹の3つです。潜伏期間（ウイルスをもらってから発病するまでの期間）は10～12日です。

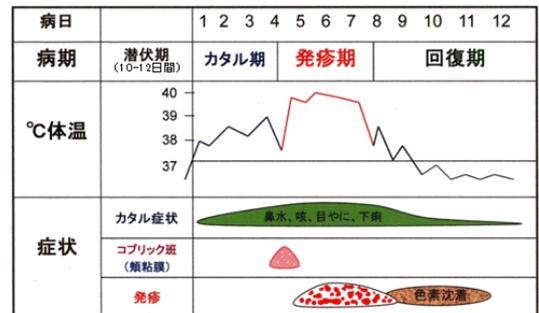
初期（カタル期）：①38℃前後の発熱、②かぜ症状（咳、鼻、くしゃみ）、

③目の充血や目やに、④口の中に白色の小さなぶつぶつが出る

中期（発疹期）：39℃を超える高熱と、頭頸部より発疹が出現して全身に広がる

後期（回復期）：発疹は黒ずんだ色素沈着となり、しばらく残る

*カタル期が最も感染力が強い時期となっており、カタル期で麻疹であることに気づかずに行動することが、感染を広げる原因となります。



麻疹の合併症

①肺炎は10人に1人の割合で発症し、うち1%（発展途上国においては10～30%）が死亡します。死亡するのは幼児がほとんどです。

②脳炎脳症は1,000人に1人の割合で発症し、10%が死亡、70%に精神発達遅延やけいれん、片麻痺などの後遺症を残します。

③遅発性脳炎は10万人に1人の割合で、感染から平均数年後に発症し、のちほぼ全員が植物状態となって死亡します。多くは2歳以下に感染した小児です。

*麻疹で死亡する割合は先進国であっても1,000人に1人とされています。

*妊娠中に麻疹に感染すると流産・早産・死産が30～40%の確率で起こるので注意が必要です。

麻疹を防ぐにはマスクやうがい、手洗いでは不十分で、予防接種により免疫を作ることが最も確実です。国による予防接種は、昭和54年4月2日以降に生まれた人から行われています。その勧め通りに接種した場合の接種回数は下記の通りになります。

昭和54年4月1日以前に生まれた人・・・・・・・・・・・・・・・・・・0回

昭和54年4月2日～平成2年4月1日に生まれた人・・・・・・・・・・1回

平成2年4月2日以降に生まれた人・・・・・・・・・・・・・・・・・・2回

規定通りに受けている人は80～95%程度と言われており、自分が規定通り受けているかどうかは、母子手帳で確認してみてください。抗体を十分持っているかどうかは血液検査で調べることができます。不安な方は抗体検査を受けて、抗体が不十分であれば再度予防接種を受けるようにしてください。

麻疹の抗体がなければ前述のような症状がすべてそろそろ「典型的な麻疹」にかかります。予防接種を2回行って抗体価（免疫の力）が十分高ければ麻疹にはかかりません。抗体はあるけれども不十分な場合には症状がすべて揃わないことがあり、「修飾麻疹」と呼ばれる軽い麻疹になってしまいます。本人にとっては軽いことはいいことなのですが、発疹が出ないため普通のかぜだと思い込んでしまい、知らず知らずのうちに感染源になってしまっている場合もあります。感染を拡大させないためには、修飾麻疹の診断は重要です。典型的な症状であれば診断は可能ですが、非典型的な「修飾麻疹」を症状だけで診断するのは困難です。「周辺に麻疹の患者がいる」、「外国（麻疹流行地）からの帰り」、「潜伏期間」、「年齢」、「ワクチン接種歴」などの情報から麻疹を疑い、最終的には血液検査（遺伝子検査）で診断します。

麻疹の特効薬はありませんので、かかった場合には症状を抑えて体力を回復させる治療が中心となります。麻疹の感染発症を防ぐ唯一の予防手段は、予めワクチンを接種して麻疹に対する免疫を獲得しておくことです。

- ①子供には、麻疹の予防接種を必ず受けさせてください。
- ②1回しか打っていない人は2回目の接種をお勧めします（自費になります）。
- ③妊娠前に抗体価を測定し、抗体価が低ければ、妊娠2か月以上前に接種してください（妊娠中は接種できません）。
- ④東南アジアなど、麻疹のなくなっていない国に海外旅行をする場合には、抗体を調べ、抗体がないか不十分であれば接種しておくことが望ましいです。

もし麻疹を発症したかもしれないと思われた時は、医療機関に電話連絡した上で、公共交通機関の利用を避けて受診してください。